

元禄十四年の巡見使名の確定と、
享保二年三月国事叢記の
記述への疑問

春 松 進 一

一昨年、若越郷土研究三二卷一号に「越前を通過した巡見使の姓名と回数」として、江戸時代における幕府から派遣された巡見使の氏名の一覧表を発表させていただいた。

その際「正徳以前の公料巡見使名」と「享保二年の公料巡見使」が不明なことに触れておいた。

正徳以前の公料巡見使名

公料巡見使の派遣が確定されたのは天和期に入ってからだとされている。それまでは、私領巡見使が私領・公料の別なく同時に巡見したもので、必要に応じ随時に公料巡見は国廻目付によって行われたものであるから、綱吉の代の公料巡見が判明すればよいのであるが、各市町村史などをみても、その記述がない。

四年以前に武生市の河端五平氏に「武生市史資料編一九一頁に「元禄十四年五月十七日公儀順見衆、府中止宿二付御取扱之事」となっているが、それ以上の記述はない」とのご教示をいただいたが、それを証明する史料は他から発見できなかった。

その後「大野市史 諸家文書編(2)鈴木与兵衛家文書」の中に巡見使名一覧を発見、それを一昨年発表した表と対比してみた。

私領巡見はほぼ同じようなものだが、公料巡見は異同が多い。元来他の市町村史でも、私領巡見は詳しい記事が多いのだが、公料巡見の場合は軽く見られたせいか余り正確なものはない。それに天和元年の公料巡見とは珍しいと思つた。

鈴木与兵衛家文書(公料巡見のみ)

天和元 伊藤彦五郎、日野小左衛門

服部八右衛門

宝永7 □坂権九郎、奥山又三郎

伊藤左衛門

享保2 黒沢直右衛門、齋嶋新助

賤田武左衛門

延享3 白戸彦八郎、窪田忠藏

服部藤九郎

宝暦11 熊谷次郎兵衛、平山清藏

武嶋弥太夫

寛政元 此留間助左衛門、林宗三郎

工藤八右衛門

天保9 本目兵左衛門、中川次左衛門

阿久沢弥平次

〈傍線人名は前表と異同のあるもの〉

前表で、正徳二年の巡見使名は二人までが確定(黒沢直右衛門高室・久保田新助政尹)しているので、これらが享保二年ということは有り得ない。とすれば天和元年の巡見使も誤記ではなからうかと思われる。

天和元年の巡見使の伊藤彦五郎・日野小左衛門・服部八右衛門は正確には何年だろうかかと、寛政重修諸家譜を調べてみた。

◎伊東彦五郎^{祐景} 慶米百五拾俵

元禄十四年三月二十一日仰をうけたまはり

て美濃、越前等の国々を巡見す。

正徳元年七月七日死す。年五十六

◎日野小左衛門正晴 慶米百五拾俵

元禄十四年三月二十一日おほせをうけたま

はりて御料の国々を巡視し……

延享元年八月二日死、年七十六

◎服部八右衛門^{保孝} 慶米百五拾俵

元禄十四年三月二十一日仰せをうけて諸国

を巡見し……

享保九年六月十三日死す。年六十五

とあり、いずれも「元禄十四年三月二十一日」に下命されている。

大野市史諸家文書編(2)五二二頁の鈴木与兵衛家文書の記述は誤記ということになります。この文書によって新しい事実を確定することができました。

昨年の八月に巡見使のことを調べた時、大分詳しく調べたつもりでしたが、「元禄十四年」の巡見使の記載は他に見ることができませんでした。

享保二年の公料巡見

「国事叢記」享保二年三月十九日の項に、「廻国衆金津泊。加州より被参。御使者西尾

春松 元禄十四年の巡見使名の確定と、享保二年三月国事叢記の記述への疑問

四郎左衛門……」とあり、これを私は「加賀より巡見使が来て金津に泊まった。使者の名は西尾四郎左衛門である。」と解釈した。続いて四月二日には若狭より鳥井権之助・天野伝兵衛・小菅伊右衛門の私領巡見使が来ているので、加賀より来たのは公料巡見使であると思つた。

その後「越藩史略」で西尾四郎左衛門は加賀藩の使者であることが判明し、巡見使と同道して金津まで来たと解釈した。他の史料では享保二年三月の巡見使の史料は皆無であるが、享保二年の公料巡見ははたして行われたのだろうか？ 家継の代には私領巡見は行われず、公料巡見のみが行われた。その実施年「正徳六年」と「享保二年」とは一年しか経っていない。とすると吉宗の代にもし公料巡見が行われたとしても、もつと後ではないだろうか？

いくら調べても結論は出なかつた。
ある時、私領巡見使名と公料巡見使名とを併記した表を作っている内に、その後部に「国事叢記」と「越藩史略」の記事を併記してみた。次の記述である。

	〈国事叢記〉	
	三月十九日	廻国衆金津泊。加州より被参。御使者西尾四郎左衛門
	四月二日	廻国衆自若狭越前へ御越、今庄泊。……
	十一月	廻国衆福井参着。……鳥井権之助……天野伝兵衛……小菅伊右衛門……
	十二月	三官使愛宕山へ被登。直に御立官使細呂木休。同日加州大聖寺へ被出ル。
	二十日	
	四月二日	〈越藩史略〉 巡国使鳥井権之助……天野伝兵衛……小菅猪右衛門、若狭国より入て今庄駅に宿す。
	十一月	巡国使田谷に休し、城下に入る
	十二月	三使愛宕山に登り、直に城下を発す、……
	十九日	巡国使往て金津駅に宿す、加州侯の使价西尾四郎左衛門此に来る。翌日細呂木に休して、出て加賀国に趣く

「越藩史略」では、三月には巡見使の記事はない。子細に対比している内に天啓のように閃いた。「越藩史略」の四月十九日「巡国使往て金津駅に宿す、加州侯の使价西尾四郎左衛門此に来る。」と「国事叢記」三月十九日「廻国衆金津泊。加州より被参。御使者西尾四郎左衛門」がびつたり合致するのである。「国事叢記」三月十九日の記事は四月十九日の誤記ではなからうか？ とすれば、享保二年の公料巡見は行われなかつたのではなからうか？

皆様方のご批判を乞う次第である。

* * * * *
この稿を提出後、宮崎村誌別巻八九七頁に次の記述を発見。

「写控年号

元禄・宝永七八月・享保・宝暦十一年・天明九年・天保西三月」

元禄年間の巡見使について他の市町村にも記録が残されている可能性が感じられた。

春松 元禄十四年の巡見使名の確定と、享保二年三月国事叢記の記述への疑問

将軍名	襲封年	施行年	私領巡見	公料巡見
1 家康	慶長8	元和3	桑山 左衛門佐	伊東 彦五郎
2 秀忠	慶長10	元和9	徳山 五兵衛	黒沢 直右衛門
3 家光	元和9	寛永10	神保四郎右衛門	伊保田 新助
4 家綱	慶安4	寛文7	甲斐庄喜右衛門	日野 小左衛門
5 綱吉	延宝8	天和1	大関 勘右衛門	服部 八右衛門
6 家宣	宝永6	宝永7	島田 藤十郎	伊藤木工右衛門
7 家継	正徳3		高井 作左衛門	磯田 武大夫
8 吉宗	享保1	享保2	鳥居 権之助	奥山 又三郎
9 家重	延享2	延享3	小菅 伊右衛門	窪田 忠藏
10 家治	宝暦10	宝暦11	大久保江七兵衛	平山 清藏
11 家斉	天明7	寛政1	依田 金十郎	林 宗三郎
12 家慶	天明8	天保9	筑紫 徒太郎	中川 次左衛門
13 家定	嘉永6	安政1	木下 内記	阿久沢 弥平次
14 家茂	安政5		石尾 織部	
15 慶喜	慶応2		寛 新太郎	

巡見使の行われた年と巡見使氏名

傍線氏名は寛政重修諸家譜により確定